

続・鳥の話

たまに、「今の時期だと見所はなんですか？」と聞かれます。
見所とは、「見るべきところ。見る価値のあるところ」だそうです。

この公園のコンセプトは里山。それぞれが価値を見出して、思い思いに楽しんでいただけたら…と思います。

私のお勧めは「凍った御所沼(の氷割!)」と「風のない日の日向ぼっこ」そして、林や水辺の鳥の観察です。今回は林の鳥をご紹介します。

とにかくかわいい! ことりたち



エナガ(柄長)

(L14 cm W16 cm)

林の中で暮らし、出ること
は少ない。昆虫や樹液
を食料にする。



シジュウカラ(四十雀)

(L15cm W22cm)

胸に黒いネクタイを締
めている。秋冬は地上で
エサを探す。



シメ(鴿)

(L19cm W31cm)

太い嘴で木の実を割っ
て食べる。亜寒帯域から
渡来。明るい林に生息。



ジョウビタキ(尉鶺鴒)

(L15 cm W22 cm)

サハリンなどから渡来。
農耕地や明るい林のヘ
リなど、開けた場所に。

森に響くドラミング キツツキ



ヤマガラ(山雀)

(L14cm W22cm)

主に林の上層で生活。ガ
の幼虫などを食べるが、
秋冬は木の実も食べる。



アオゲラ(緑啄木鳥)

(L29 cm W49 cm)

主に昆虫や幼虫を食べ
るが、秋冬はカキその他
の木の実もよく食べる。



アカゲラ(赤啄木鳥)

(L24 cm W39 cm)

1 秒間に 18~22 回程度
木を叩く。縄張り主張の
意味があるらしい。



コゲラ(小啄木鳥)

(L15 cm W27 cm)

秋冬はシジュウカラ類
の群れと一緒にいるこ
ともある。

桃の花の咲くところ。

3 月です。草木は休眠から目覚め、足元では小さな野草が風に揺れています。
古河総合公園では、公園の代名詞ともいえる花桃が今にも咲きそうな様子です。
花桃の開花は平年 3 月の中旬で、見頃が 3 月下旬～4 月第 1 週であることが多いです。
ただ、この開花状況でいう「花桃」は主に「矢口」という品種のことを指していて、その他の品種は開花時期が異なります。今回は総合公園に植えられている桃の品種について説明します。



植栽地図

- 矢口(主に)
- 源平
- 寿星桃
- 菊桃
- 混合エリア



【矢口】 総合公園の桃林の約 8 割を占めています。雛祭の切り花の代表種で、鮮やかな八重の花が一枝に多数ついてとても見ごたえがあります。この矢口が桃まつりの主役となっていて、「開花状況」もこの品種の状況をお答えしています。

【源平】 北側パークフロントの北側(ややこしいですね)、公園北西の外周、元屋敷の四阿(あずまや)の付近、蓮池トイレ付近などの他、矢口の中にぼつりぼつりと植えられています。見頃は 4 月初旬です。

【寿星桃】 旧正門とパークフロントに植えられています。見頃は 4 月の初旬です。

【菊桃】 公園北側、民家園東側の斜面に植えられています。
開花は遅く、桃まつり後の 4 月の中旬ごろに見頃を迎えます。

【寒白】 まとまって植えてある場所がなく、矢口に交じって咲いています。見頃は 3 月下旬です。

植栽地図の混合エリアは、数種類の花桃が等間隔に植えられている場所です。昨年植えられたばかりの若木です。

総合公園では毎年桃の木の植え替えを行っているため、今年度の桃林は上記のものとは異なっているかも知れません。咲いてみないとわからない…。開花が待ち遠しいですね。



5月は 花うっしゅ

新緑が目には鮮やかな季節となりました。
総合公園では多くの植物が美しい花を咲かせ、散歩している人の目を楽しませてくれています。今回はこれから見られる草花をご紹介します！花の命は短い…ので、お目当てのものはお見逃し無いように。



←フジ
(4月下旬～
5月上旬頃)

中山台、
蓮池周辺、
雪華園、
公方様の森
など。



←ベニバナ
トチノキ
(5月上旬頃)

北側駐車場
(公道から入
って右手側、
生垣の駐車
場)



大賀ハスの葉(4月下旬～夏頃)、蓮池
※花の開花は6月末～7月下旬頃



スイレン(5月上旬～夏頃)
浄円坊の池



←↑ユリノキ(5月中旬頃)
生垣の駐車場、道路側他



キリ(5月上旬頃)
「春草席」付近



コウホネ(4月下旬～)
花菖蒲田隣の池



見分けはつくのか!?

アヤメ VS ハナショウブ

よく似ていることで有名なアヤメとハナショウブ。2つの花の違いをまとめてみました。



アヤメ

5月中旬ごろ
日当たりのよい、
乾燥、多湿で無い
ところ
花が小さい
花弁の基部(付け
根)に、白地に青
紫の網目模様

花期

場所

花

ハナショウブ

6月上旬前後
草原、湿地

花が大きい
花弁の基部が黄
色い



2000年の時を超えて…

生命の神秘

大賀ハス

参考：一般的なハスの分類

目：ヤママガシ目 Proteales

科：ハス科 Nelumbonaceae

属：ハス属 *Nelumbo*種：ハス *N. nucifera*

Q1.大賀ハスってなに？

A.1951年、大賀一郎博士の指示の下、千葉市内の約2000年前の地層より発掘された種子から、約2000年ぶりに発芽したという凄いハスです！
博士の名前を取って「大賀ハス」と名付けられました。

Q2.どうして古河市にあるの？

A.1975年に千葉市からハスの根2本を頂いたためです。植えられた大賀ハスは同年の夏には花を咲かせ、街の話題となったそうです。現在では頂いた根から増えに増え、総面積3000㎡の蓮池いっぱいになりました。

Q3.ハスの花はいつ見られるの？

A.花期は6月下旬から8月上旬で、最盛期は7月中旬です。
7月中旬以降は茎が伸びすぎて見にくくなります。
ハスの花ひとつひとつが開く期間はわずか4日間。深夜から早朝に咲き始め、正午頃には閉じてしまいます。
暑い夏。いつもより少し早起きして、古代のハスを見に来てはいかがでしょうか？

1日目



朝5時頃から開き始めるものの開ききることはなく、8時頃には閉じ始めます。

2日目



深夜から朝7～9時にかけてゆっくり開き、正午頃には完全に閉じます。

3日目



2日目と同じように開き始めます。ただし花弁は色あせ始め、完全に閉じずに半開きのままです。

4日目



朝から1枚ずつ花弁が散り始め、昼頃までに散り終えます。散らず、退色した白い花弁が付いたままのこともあります。



←乾燥した果托

例年、11月頃に果托の刈取りを行います。果托は屋内で乾燥し、管理事務所にてひとつ50円で販売しています。古布を詰めて飾りにしたりします。

※果托…ハスの果実のこと。花弁があるうちは花托(花床ともいう)、花弁が落ちて、種子が熟し始めたら果托と書きます。

夏企画

廻れ！地名碑！！～公園北側編～

石碑発見
の旅路

散歩、してますか？

JR 古河駅から車で 10 分、開園総面積 22.4ha、緑あふれる総合公園はウォーキングにぴったりです。ですが、「目的もなく歩くのはつらい」「もう飽きた」という方も中にはいらっしゃるかと思います。

今回、そんなあなたにご提案するのがコレ、「地名碑オリエンテーリング風散歩」！

やり方は簡単。園内に点在している地名碑を探しながら歩くだけ。本来のオリエンテーリング競技でのチェックポイントの代わりです。

全てを巡ると、総合公園の隠された真実(公園設計者の意図やこの地の歴史)が見えてきます…。今月は公園北側(桃林や蓮池の方)のご紹介です！

公園北側てくてくマップ



実は、公園内の道や橋には名前が付いています。その多くが鴻巣村こあざが生きていたころの小字です。その内、代表的なものを石碑に残しました。

また、公園外の小字を引用しているものもたくさんあります。当時の小字を、「外側であっても打ち捨てておくには惜しい」と考えた設計者の粋な計らいですね。

公園北側には**12基**の地名碑があります。碑の表書きをまとめましたので、探してみてください。



← 地名碑

●古河公方広場 二入川(管理棟横)

この地図にはないが、管理棟の南に広がる森に古河公方館があったといわれている。

●中山の小川(中山のせせらぎ南側)

このあたり一帯はかつて「中山」と呼ばれていて、そこから「中山台」という名前をつけた。

●元屋敷の桃林(元屋敷のあすまや付近)

この辺りが昔「元屋敷」と呼ばれていたため。

●ラン塔の泉(アヤメ畑の近く)

ラン塔とは「卵塔」と書き、無縫塔の別名。僧侶の墓の事。そういえば近くにお墓があります。

●トラエモン道(花菖蒲田西)

かつてこの付近に「トラエモンさん」の家があり、小字名として残っていたため、そこから命名。

●浄円坊の池

この場所の旧小字名「浄円坊」に由来。資料は残っていないが、寺院に関する何か。ミステリーです！

●神明前の大エノキ(遊具広場北西)

旧小字「神明前」から。かつて牧野地口を出たところに「新明神社」があり、その南のため。

●牧野地道(芝生広場北側)

旧牧野地村に至る道。公園出入口名は「牧野地口」。

●まくらが浜 会わずの渡し

「まくらが」は許我にかかる枕詞で、元々は地名とされている。裏書は、「あなたに会いたい」という歌。

●雪華園(ジェラテリア前)

自然と人間の関わりを八つの景色に表した庭。ジェラテリア(というカフェ)内部からも眺められる。

●御所沼(管理棟西側)

現在立入禁止になっている区画なので、裏書を書きます。

「古河公方館の周りに広がるこの沼は御所沼と呼ばれていた。昭和二十六年水田として埋め立てられたが、公園事業により平成七年春、復元された。」

秋の七草を探して

秋の七草をご存知ですか？

春の七草とは異なり、こちらは食べられませんが、七草粥のような関連イベントもありません。ですが、半分くらいは名前を聞くと分かる草花だと思います。

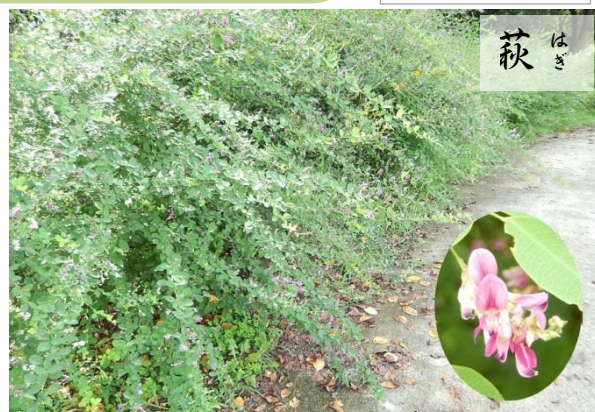
春の七草に押され気味の秋の七草ですが、その歴史はとも古く、奈良時代初期にまで遡ります。歌人山上憶良が和歌に詠んだのが初めと言われているため、およそ三三〇〇年間受け継がれてきた由緒ある七草なのです。七種類全て園内で確認されていますが、多くが野草ですので、探しても見つからない場合はご容赦ください。

山上憶良が詠んだ秋の七草の歌

秋の野に 咲きたる花を 指折り
かき数えれば 七種の花

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花
姫部志 また藤袴 朝貌の花

萩 はぎ



マメ科ハギ属で、高さ一〜二m。紫紅色の小さな花をつける。白色の変種もある。花期は七〜九月。

【場所】芋ころがしの坂周辺

尾花 (芒) おはな すずき



イネ科ススキ属。現在はススキ、カヤと呼ぶ。花期七〜十月。

【場所】公園南の園路沿い他

葛 くず



マメ科クズ属の大型つる状草本。花期は七〜九月で、下の方から順に咲いていく。

【場所】川瀬島(公園南)他

撫子 なでしこ



ナデシコ科ナデシコ属で、淡紅紫色の可憐な花。高さは三〇〜百cmで、花期は七〜十月。

【場所】公園南の園路沿い

女郎花 おみなえし



オミナエシ科オミナエシ属で高さおよそ一mの黄色い花。花期は八〜十月。

【場所】公園南の園路沿い

藤袴 ふじばかま



キク科フジバカマ属で、高さは一〜二m。総合公園での花期は九月以降。

【場所】公園南の園路沿い

朝貌 (桔梗) あさがお ききょう



憶良が詠んだ「朝貌の花」は、桔梗を指しているとするのが最有力だそうです。

キキョウ科キキョウ属の、高さ五〇〜百cmの花。花期は七〜九月。

【場所】雪華園

☆秋の七草の覚え方☆

「おすきなふくは」

尾花はススキに、朝貌は桔梗に読み替えて頭文字を並び替えたもの。フリー百科事典にも載っている、有名な覚え方です。「ふく」は、服だと思われます。

「どのような服がお好みですか？」

写真提供(撫子 藤袴)

もりもりクラブ川田さん
ありがとうございました！

廻れ！地名碑！！～公園南側編①～

地名碑めぐり推奨ルート (太字が地名碑)

- ⑩スタート(総合公園入口付近)
- ⑪鴻巣の1本榎
- ⑫民家園
- ⑬茶園
- ⑭芋ころがし坂
- ⑮河童沼
- ⑯竹林(日和山付近)
- ⑰愛宕川
- ⑱仙人池の地名碑(愛宕川付近)
- ⑲仙人池(こぶし野にある池)
- ⑳こぶし野
- ㉑春草席
- ㉒水鶏坂の地名碑(春草席北)
(園路に戻って)
- ㉓野草園(こぶし野南東)
- ㉔水鶏坂
- ㉕ホッツケ田
- ㉖茱萸坂
- ※㉗以降は来月に解説します。

公園の南側は北側とは少し違って、より「里山らしい」風景が広がっています。南東のエリアには長閑な古民家、開けた茶畑、小川にかかる細い橋、背の高い草で隠れた小道、ひっそりとした森などが在り、それらはかつての生活や幼い頃の探検を思い起こしてくれるのではないのでしょうか。公園を散策する推奨ルートがこちら(←↓)です。今月はホッツケ田付近まで紹介。



公園南東のおすすめ



民家園と茶畑

茨城県指定有形文化財の旧中山家(右の直屋)と、国指定重要文化財の旧飛田家(左の曲がり屋)。収穫したお茶は管理棟で販売しています。



でんぐりも
あるよ



(左上)春草席から臨む御所沼

(右上)仙人池

(左下)こぶし野と春草席(の棧橋)

春草席・こぶし野付近には柳や桐、こぶしや葎などが生えていて、落ち着いているのに賑やかです。



草の小道～竹林

河童沼から南に抜けると、背の高い草の分かれ道。左に行くと竹林へ、右に行くと園路に戻ります。



ホッツケ田

稲刈り後。隠れ里のようです。

廻れ！地名碑！！～公園南側編②～

続・地名碑めぐり推奨ルート (太字が地名碑)

- ⑩筑波見の丘
- ⑪天神橋
- ⑫相ノ谷橋
- ⑬相ノ谷橋から望む公方様の森の紅葉
- ⑭御所沼の水鳥
- ⑮立崎野
- ⑯筑波見の丘
- ⑰天神橋
- ⑱天神松
- ⑲抱衣松
- ⑳公方様の森
- ㉑空堀跡
- ㉒星湖釣殿

秋も深まり、冬の訪れが感じられるようになってきました。今月は公園南西から公方様の森までをご紹介します。南東に比べると歴史色が強くなる南西エリア。中世に古河公方館があったとされる公方様の森や、明治時代前後の地名を取った地名碑…。古河の歴史を感じながら、初冬の古河総合公園をお楽しみください。



公園南西の見どころ



かわうそ橋

坂間と中田新田の間に、最大幅 300m の沼(瀬沼)があり、カワウソが住んでいたことに因む。



公方様の森の紅葉・黄葉

15 世紀半ばに足利成氏が館を築いたという公方様の森(当時の本丸辺り)。



相ノ谷橋から望む公方様の森の紅葉

「相ノ谷」は現「筑波見の丘」西側の地名。「アイ」は湧水地などを、「ヤ」は湿地を表すことが多い。橋の隣、もぐっちょとはカイツブリのこと。潜水上手な水鳥。



古河公方館址全域実測図(着色)

図は昭和 58 年頃作成。緑に塗った公方様の森が本丸、民家園や駐車場の辺りが二の丸だったと推測されます。その間、茶色に塗った所が空堀跡です。

Note.

- 【新久田】【駒ヶ崎】旧鴻巣村に隣接した村の名前。
- 【立崎野】立崎は、かつての古河城の南端の村名。
- 【天神橋】鷹見泉石の鴻巣村絵図によると、森の西端に天神の祠があった模様。
- 【天神松】【抱衣松】同泉石図によると、当時は北に天神松・南に抱衣松だったようだ。
- 【筑波見の丘】空気の澄んだ冬、筑波山が見えるとされる。

参考文献

- ・古河通史(下巻)鎌水 柏翠
- ・古河城・鴻巣館遺構調査発掘調査報告書
- ・古河城(古河市歴史博物館発行)
- ・古河公方展(古河市歴史博物館発行)
- ※スペースの都合で一部省略